

有明海におけるカキ養殖に関する研究

有明海研究所

背景、目的

有明海福岡県地先においてカキ養殖は、昭和30年代にノリ養殖と入れ替わるように衰退しましたが、近年、二枚貝の浄化能力が注目され、有明各県で養殖研究が行われるようになりました。当海域に生息するカキは、漁業利用度が低く、生態に関する知見は少ないのが現状です。

そこで、本県有明海産カキの有効利用と養殖種としての可能性を把握するため、各種カキの分布を明らかにするとともに、その天然採苗試験に取り組みました。

成果の概要

(1) 有明海に分布するカキの種類及びカキ分布状況

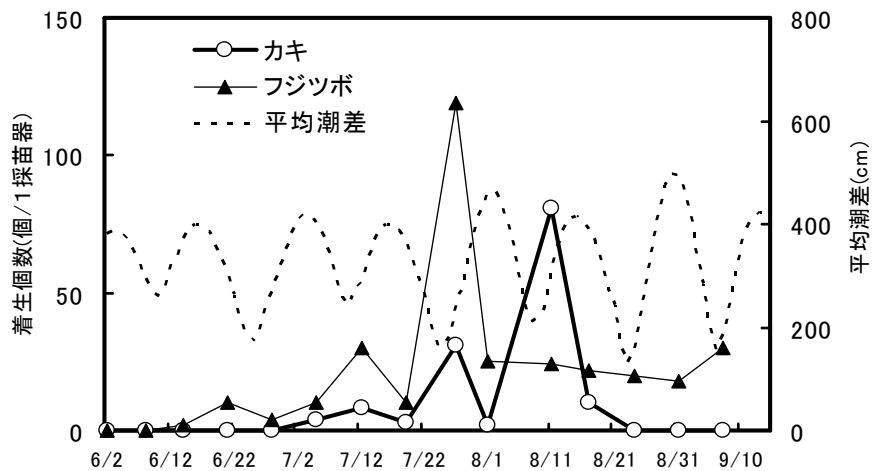
採取したカキのDNAを分析した結果、シカメガキ、マガキ、スミノエガキの3種が確認されました。また、河川部ではシカメガキのみ、河口部及び沖合部では地盤高1~2m付近にシカメガキが、0~1m付近にマガキ、スミノエガキが確認され、種類毎の分布の特性が明らかになりました。



分布が確認された3種類のカキ

(2) 天然採苗試験

漁港での採苗試験の結果、カキの付着は7月下旬~8月上旬の小潮付近に多く、競合するフジツボの付着は7月中旬~下旬に多くみられますが、8月には減少しました。採苗されたカキは、すべてシカメガキでした。



漁港におけるカキ天然採苗試験結果

これらのことから、7月下旬~8月上旬の小潮を目安にした採苗により、シカメガキの天然採苗の可能性が示唆されました。